

もう何千時間も国語の授業をしてきました。満足のいく授業は、何時間ぐらいあったのか。答えはゼロです。1時間もありません。それが現実です。思うようにはいかないのが授業です。

若い頃は、授業をやりながらも、何か違うなとずっと思っていました。当時の生徒たちには、申し訳ない気持ちがあります。それでも、どうにかしなければならないと、悪戦苦闘し、試行錯誤を重ねてきました。自分の授業をどうにかしたかったのです。答え、いやゴールがあるような気がして、とにかく前に進もうとしていました。

30代後半になり、ある方からマンツーマンで授業の指導を受けることになりました。年間4回の研究授業を行いました。そこで、初めて知りました。それまでの自分の国語の授業は、授業と言えるものではなかったのです。そもそもの考え方方が違っていました。

年に4回も研究授業を行い、その度にマンツーマンで指導を受けるというチャンスに恵まれました。それが、その後の自分の国語人としての人生を決定づけたと言っても過言ではありません。ようやく授業というものが少しだけわかってきたような気がしました。わずかながら光が差しました。羅針盤を得たのです。きっと授業のフルモデルチェンジをすべきタイミングだったのでしょう。

授業の真髄というと大げさかもしれません、授業の核のようなものを手に入れたように思います。そこからは、自分の授業を変えました。すると、生徒も変わっていきました。それに伴って学力も向上していました。授業を変えれば生徒が変わり、学力も上がっていく。それを身をもって知ることができました。

このブログは、日々、国語の授業に取り組みながらも、悩み苦しみ、それでも、もっといい授業を追い求め、前に進もうとしている先生方のために作成していくものです。ものごとには、ポイントがあります。国語の授業のポイントを示し、授業の基本パターンをもとに解説しています。

先生方にとって、研究授業は授業を変えるチャンスです。その取り組み方によって、効果の度合いは変わってきます。研究授業に対して、どう向き合えばよいのか、悩む先生は多いのではないでしょうか。少しでも先生方の背中を押すことができるように、いわば研究授業のガイドブック的な要素を盛り込みました。

内容は、「国語指導編」と「研究授業編」の2部構成となっており、それぞれ独立した形をとっていますが、互いに関連した内容となっています。ぜひ、すべてをお読みいただき、授業を変えるきっかけとしていただければ幸いです。

これは、自分のブログとインスタで始めた「誰にでもできる国語研究授業 AtoZ」の「はじめに」の文章である。副題を「国語人としての思い」とした。自分の今までの経験を生かすことができる取り組みの一つだと考えている。